



第4章 これからのまちづくりに向けて

4-1 まちづくりに生かすべき特性

今後のまちづくりを進める上で、地域で育まれてきた資源やこれまでのまちづくりの成果等の地域特性を最大限に生かし、本町らしいまちづくりを進めることが重要です。こうした本町の代表的な特性を整理すると次のとおりとなります。

まちづくりに生かすべき特性

- 特性1 豊かな自然と「食」を有するまち
- 特性2 特色ある産業が展開されるまち
- 特性3 北海道有数の歴史を有するまち
- 特性4 健康・福祉・子育てを重視するまち
- 特性5 地域への愛着と連帯感があるまち

■特性1 豊かな自然と「食」を有するまち

本町は、深く豊かな森林を湛（たた）える渡島山地の山並みとともに、日本海へと注ぐ天の川をはじめとする清流を有しています。これらは檜山道立自然公園に指定されており、特に山野草の宝庫である夷王山は自然公園随一の景勝地となっています。

山と海の環境を保全するために、森林の多面的機能の回復に取り組んでいます。

また、こうした自然の恵みである海山の幸を生かし、「食」をテーマとしたイベントも多数開催しています。

これらの自然や景観は、住民の暮らしや交流、産業活動に様々な恵みをもたらす貴重な財産であることから、環境保全に十分留意しながら、すべての人にやさしい持続可能なまちづくりに生かしていくことが必要です。

■特性2 特色ある産業が展開されるまち

本町は、これまで農林業や漁業を基幹産業として発展してきており、農業ではキヌサヤエンドウや立茎アスパラガスなどの振興作物のブランド化を進めています。

また、漁業では海洋牧場を造成し、アワビなどの養殖に取り組んでいます。水産資源の維持・増大を図るため資源管理型漁業の促進に取り組み、種苗生産や育成に転換を図りつつ、魚礁の設置等漁場の整備と藻場環境の保全に取り組み「つくり育てる漁業」を推進することが必要です。

■特性3 北海道有数の歴史を有するまち

本町は、北海道で最も早い時期に和人が定住した地域のひとつであり、史跡上ノ国館跡（勝山館跡、花沢館跡、洲崎館跡）等の、道内でも貴重な中世の歴史遺産を多数有し、中学校・高等学校の日本史の教科書にも紹介されています。

これらの歴史や文化は本町の特性の中でもとりわけ誇るべきものであり、未来へ継承する遺産であるとともに、地域活性化につなげる交流資源としても活用していくことが必要です。

■特性4 健康・福祉・子育てを重視するまち

本町は、保健・医療・福祉の連携のもと、地域からの健康づくりをはじめ、住民の健康・福祉を増進する様々な活動を活発に展開してきています。

また、子育て世代を応援するための18歳以下の医療費無料化等や、健診、各種がん検診、運動教室等への参加に対する健康的な生活習慣の継続を応援するための事業を展開してきています。

少子高齢化が進む中、こうした保健・医療・福祉の連携を一層強化し、住民が健やかにいきいきと暮らせるまちづくりが必要です。

■特性5 地域への愛着と連帯感があるまち

人と人とのつながりや地域連帯感、郷土意識が薄れていく傾向にある中、本町には、豊かな自然と歴史等を背景に古くから培われてきた人のあたたかさや人情、郷土愛が色濃く残っています。このことは、アンケート調査においても「まちへの愛着」を感じている人が7割強にのぼることから、地域への愛着度が高いことがうかがえます。

こうした住民性を背景に、助け合い、支え合いの精神に基づく様々な分野で住民の自主的な活動が活発に展開されており、その中で地域の高齢化に対応するため自治会等への様々な支援を実施しています。

今後のまちづくりにあたっては、こうした特性を十分に生かしながら、自立した地域づくりをさらに進めていくことが必要です。



4-2 まちづくりの課題

本町の現状や特性、住民ニーズ、さらには本町を取り巻く社会・経済動向を踏まえ、これから新しいまちづくりを進めていくための課題を整理すると次のとおりとなります。

まちづくりの課題

- 課題1 時代に対応した地域産業の振興と地域の活力を生むまちづくり
- 課題2 少子高齢化への対応と健康・福祉・子育てを重視したまちづくり
- 課題3 自然と共生する安全で快適な生活基盤づくり
- 課題4 学ぶ環境の一層の向上と将来を担う人づくり

■課題1 時代に対応した地域産業の振興と地域の活力を生むまちづくり

人口減少と高齢化が進み、不確実性が増す中で持続可能なまちづくりを進めていくためには、時代の潮流を見据える力を培うことが必要です。

また、社会情勢の変化に伴う、今後10年、20年先に起こる変化に対応していくためには、将来の姿を想像・予想し、望ましい地域の姿になるためにどういったことをやっていくべきかを考える視点が重要となります。

このため、本町においても農業・漁業を基幹産業とするまちとしての特性を生かしながら、新エネルギーなどの時代の流れに即した支援施策を積極的に推進し、地域産業の活性化や、生産物の高付加価値化を促していくことが求められます。そのことで、地域経済に資金や技術等の新たな流れを呼び込み、「選ばれるまち」になるしかけが必要です。

また、本町の地域活力の維持・向上のために、交流人口及び関係人口¹の拡大、移住・定住促進やUターンしやすい環境を整えていくことが必要です。



1 「関係人口」…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者のこと。関係人口の増加により、地域外の人材が地域づくりの担い手となることの波及効果が期待できるとされています。

■課題2 少子高齢化への対応と健康・福祉・子育てを重視したまちづくり

国勢調査によると、平成27年10月1日現在の我が国の人口は1億2,709万4,745人となり、平成22年の調査と比べると、人口は96万2,607人減と、大正9年の調査開始以来、減少となりました。また、人口減少に加えて、高齢化率は26.6%に上昇するなど、国民の約4人に1人が高齢者となるという、これまでの状況をはるかに超えた超高齢社会を迎えています。また、出生率の低下により、少子化も急速に進行しています。

本町の高齢化率は既に39.8%（平成27年国勢調査）と、住民の4割弱が高齢者となっており、今後も少子高齢化・人口減少が一層進行することが予想されます。このため、一人暮らしの世帯が増加する傾向にあり、孤立する住民の増加が懸念されることから、地域コミュニティを維持するためにも自治会への様々な支援の充実が求められています。

また、安心して子どもを出産、育てることができる社会づくりに向けて、本町の特徴でもある「子育てにやさしいまち」づくりの継続が求められています。

さらに、誰一人取り残されることのない、持続可能な地域づくりを進め、次世代へしっかりと引き継いでいくことが重要であるという考え方のもと、いつまでも住み慣れた地域で、自分らしくいきいきと暮らせる仕組みを創りあげることが必要です。





■課題3 自然と共生する安全で快適な生活基盤づくり

国内外において大地震やゲリラ豪雨等が多発し、自然災害からの安全性確保に対する、人々の意識が急速に高まっています。

また、世界各地におけるテロの発生、子どもが被害者となる凶悪犯罪の多発、食の安全性をめぐる様々な問題の発生、振り込め詐欺等の悪質商法によるトラブルの急増等を背景に、犯罪や事故のない安全・安心なまちづくりが強く求められています。

さらに、地球温暖化に代表される地球環境問題の一層の深刻化、水質の悪化等の身近な地域における環境問題の発生を背景に、将来の世代へ美しく豊かな環境を継承するための具体的な取り組みが強く求められています。

本町においても、豊かな自然環境の保全をはじめ、リサイクル、新エネルギーなど環境への負荷の少ない循環型社会の形成に向けた取り組みを一層積極的に進めていくことが求められます。

また、自然環境との共生を基本に、計画的かつ調和のとれた土地利用のもと、安全で利便性の高い道路・公共交通網の整備、定住基盤となる住環境の整備、高度情報化社会に対応した情報基盤の整備等の快適な生活基盤づくりをさらに充実させる必要があります。



■課題4 学ぶ環境の一層の向上と将来を担う人づくり

少子高齢化や国際化、情報化の一層の進展、価値観の多様化等、時代が大きく変化する中、新たな時代を切り拓く創造性豊かな人材の育成が不可欠となっています。特に、次代を担う子どもたちの健全育成は、重要な課題のひとつです。本町が進めている「まちづくりは人づくり」を合い言葉に、急激に変化する現代社会の中で、長期的な視野に立って、すべての子どもたちが「生きる力」と「ふるさとへの愛着を持つ心」を身につけることが重要です。

そのため、基礎学力の向上とともに、児童生徒の個性や能力、自立心や思いやりの心等を伸長する教育を行うため、学校・地域・家庭が連携して、教育環境の充実に努め、子どもたちの健やかな成長に寄与していくことが求められています。

また、人生100年時代を迎え、心豊かに暮らしたいという住民の欲求は強まり、学習活動やスポーツ活動、文化活動に対する関心も高まっています。住民が生涯を通じて、いきいきと学ぶことを通じ自己実現ができる環境づくりなど、生涯学習環境の充実に推進する必要があります。

さらに、貴重な歴史遺産を有するまちとして、文化財や伝統文化の保護と活用に努め、地域文化を次世代へ継承し、文化・芸術活動の振興や交流活動の促進に努めるなど、人づくりへの取り組みや地域文化の一層の振興を進めていく必要があります。

